

# 「計画が壊れた時」

マタイ 1:18 ~ 25、ルカ 1:28 ~ 38

## ■ スヌーピーストーリー

クリスマス、飼い主の食事はターキー、自分はドッグフード、彼は腹が立ちました。スヌーピーはターキーを眺めているうちに、自分はターキーじゃなくて良かったと思いました。ターキーは毛をむしられオープンで焼かれてナイフで切られて食べられていました。そのことに気がつくまで、彼は怒っていましたが、スヌーピーは自分のご飯はドッグフードで家は犬小屋だけど食べられはしないと感謝しました。私たちは、相対的な物事の見方や、比較で自分の人生を無にしているませんか？また心の中に不安や恐れがありませんか？このように心の中を支配するものは、私たちの人生を台無しにします。しかし今、与えられている恵みの中から感謝を見つけることができると、スヌーピーがドッグフードに恵みを見つけ感謝をみつけたように、人生が変えられていきます。今まで生きてきた目線から別の目線に変えられることで、人生が大きく変わっていきます。人の生き様、イエス・キリストが示された彼の人生、このようなことが書かれているのが聖書です。イエス・キリストは何の為に生まれて何の為に生きたのか、それはひとことでいうなら死ぬ為でした。クリスマスはプレゼントを誰かにあげる日ではありません。自らが、自らに与えられたプレゼントを受け取る日です。それを受け取ったあなたが、誰かの心に光を与えることができるのです。クリスマスはそのスタートの日です。

## 計画が壊れたとき

マタイ 1:18-25 (ヨセフのクリスマス)

ルカ 1:28-38 (マリアのクリスマス)

計画的なタイプからすると、それが壊れることはとても腹が立つことです。緻密に計画しているものが1つ壊れるとそのあとに続く計画は、変更を余儀なくされ、最初の計画が丸つぶれになります。マリアとヨセフに起こったクリスマスの出来事、これが書かれているのは聖書の福音書と呼ばれている箇所、意味は Good news (良い知らせ) という意味です。天使が伝えにいったのは喜びのニュースのはずでした。しかし、二人にとってそれは喜びではなく、悲しみ、落胆、怒り、裏切り、憎しみの知らせでした。

ヨセフからすると結婚前に突然、天使が現われたこと、妊娠していることを打ち明けられたら、そのことを信じるなんて到底できるはずがありません。それはただの裏切り行為。しかし、聖書ではヨセフのことを、正しい人であって、事を内密にすまそうとした。と書いてあります。このことから、二人はとても愛し合っていて、ヨセフはマリアを大切に想っていた事がよくわかります。例えば彼女が裏切ったとしても、死刑になるようなことはさせたくないと願いました。一方天使から知らせを聞いたマリアの心情はどうだったのでしょうか。当時は、女性が結婚前に妊娠するということは、法律で死罪にあたる出来事でした。ヨセフと結婚して幸せな家庭をゆめみているマリアの計画は丸つぶれです。マリアの様々な心情を想像することができませんが、聖書の描写にはそんなこと何一つ書かれていません。ただ一言、「私は主のはしめです。どうかこの身になりますように。」ここに、理解や納得があったのでしょうか。これがクリスマスです。二人には天使が現われましたが、彼らには両親がいて、両親にとっても、娘、息子の結婚の祝福の計画が壊れる大変な事件でした。クリスマス、それは計画が壊れる出来事をみて受け入れられなかった人と、受け入れた人のストーリーが描かれているのがこの記事です。クリスチャンにとって25日だけがクリスマスではありません、365日がクリスマスなのです。イエスキリストを礼拝するという意味です。礼拝は納得や理解ではありません。神様がすることは私たちの目には理不尽で私たちに何でこんなことが起きるのかわかりません。神様は理不尽の中で、人間が勝手に鉄を溶かして本来あるべきものを作り

直して偶像を造ってしまったのに、それを天地万物は全て元に戻していくのです。神様はこの世の理不尽ですら神の栄光にするのです。神は全てのことを働かせて益とするのです。でも本来神という言葉はそこにはないのです。全ての被造物が自分の納得や理解を超えた神の元々の秩序によって成し遂げられていくからです。それを考えるときに、今自分の人生に起きていることが、ヨセフやマリアのようでありたいと願います。クリスマスに礼拝をする理由は、イエスキリストの誕生を祝うこと共に、イエスキリストが生まれて生きた人生を私たちが理解することです。なぜなら、彼が、私たちの人生を理解する為にきたからです。私たちは本当に彼の人生を理解しようとしているのでしょうか。イエス・キリストが人生をかけてあなたに伝えたいことは、あなたが納得できないこと、そこには神の秩序があるということです。神に信頼するなら私たちは理解する必要は無いのです。羊は羊飼いの声を知っています。草原地に行く途中に、険しい道を通ることもあっていいです。私たちは今、そこを通っているのです。羊飼いは、羊を連れて行くのにわざわざ危険な目に遭わせたり、毛を売ろうとしているのに、汚れるような道をわざわざ通るのでしょうか。私たちの理解は不要です。羊も羊飼いと居た方が幸せであることを知っています。なのに、隣の柵の外の草が食べたくになります。自分のところに豊かに草が生えているのに。本当は自らが神様に養われ、羊飼いが素晴らしい方で自分を必ず幸せな場所に連れて行ってくれることを知っています。神様はあなたを愛しているので従おうとする人を正しくリードして下さい。たとえ誤ったとしても、リードし続けて下さっています。マリアとヨセフが選ばれた理由、またイエスキリストが理不尽で生まれてきた理由は、私たちに生きた記録としてそれを残す為です。神様がなさることは回り知ることではできません。神のなさることは、すべて時になくなって美しい。神はまた、人の心に永遠を与えられた。しかし人は、神が行われるみわざを、初めから終わりまで見きわめることができない。(伝道者の書 3:11) 聖書の言葉を見ると、私たちは自分の理解がどれほど小さいのかわかります。納得を求め、受け入れられない内にあなたに与えられたチャンスは過ぎ去っていきます。

人間の細胞は壊れるとき新しくなっています。細胞を壊すことは大切です。細胞が壊れなくなると、それは“がん”になります。増殖し続けて大きく増え広がります。

身体はいつもそのがん細胞をいつも壊して取ろうとしてくれています。それが壊れなくなることが危険です。あなたの、らるならなればいい！というその思いはがんのようなものかもしれません。なぜなら、その増えた細胞があなたを壊すからです。私たちの計画が思い通りになると、本当にそれは最後には良くなっていますか？途中で壊れていませんか。うまくいかないことが起こるとき、そこで考え直すことができます。神様がしたのかという決断はそうではありません。自らがずれていっているから問題が起こるのです。しかし、神様はそれを用いて益として戻るチャンスとして下さいます。これからは、“クリスマス” “計画が壊れたとき” と聞いたら感謝をもってイエス様を礼拝してください。

人は心に計画をたてる。しかし主の計画だけがなる。あなたの心とすることを主に委ねよ。主に信頼せよ。主が成し遂げてくださる。問題が起きたときにチャンスです。しかしこの世にあって艱難があります。勇敢でありなさい。すでに私は世に勝ったのです。●どうかこの身になりますように。●納得することを捨て、あなたについて行きます。この2つを告白していきましょう。クリスマスは神様をもう一度信じるときです。羊飼いに信頼してついて行きましょう。主は私の羊飼い私は乏しいことはありません。主は私をみどりの牧場にふさせ憩いの水のほとりにともなわれます。詩篇 23編 1~6

(要約者:富岡 牧)

(2019年12月22日)